

北海道国際理解教育研究大会に参加して

北見市立東相内小学校

田川満男

日にち：11月4日（木）～5日（金）

場 所：函館市

研究主題

「自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童・生徒の育成」
～地域に学び、地球市民として行動できる児童生徒の育成～

日 程

【1日目】11月4日（木）会場：ロワージホテル函館

開会式・全体会

来賓の挨拶の後、基調報告がなされた。今回の研究の視点としては、「函館と世界をつなぐ教材作り」「仲間と共に問題を解決していく学習活動の構築」の2つであった。教材作りをしていくための素材の条件や教材化の視点が明確に位置付けられていたり、学習活動構築のために「共に生きる力の育成」「伝えあうことを意識した外国語活動」「行動化」の取り組みが具体的に示されていた。

課題別分科会

3つの分科会に分かれており、自分は提言者としての発表があったので、第2分科会「国際交流や国際協力を通じた国際理解教育の実践」へ参加した。自分を含め3名の授業実践を通じた提言があり、その後に参加者から質問や意見などが出された。最後に助言者から提言についての感想やこれからの実践へ向けての方向性などが話された。

提言の内容としては、3名とも実際にJICAの研修や協力隊へ参加し、自分が見てきた途上国の様子などを児童に伝え、考えさせるといった実践であった。

講演会「函館開港と音楽」

函館メサイア教育研究会の徳永ふさ子氏により「西洋音楽受容先駆けの地函館」の歴史的背景についての話と実際に開港当時に歌われていた歌や演奏された音楽を函館メサイア教育コンサート実行委員会の方々が歌ったり演奏してくださった。当時、日本へ来たアメリカ人や開港を受け入れた函館の人々の気持ちに迫る素晴らしい講演会であった。

【2日目】11月4日（木）会場：函館市立駒場小学校・函館市立五稜中学校

公開授業（駒場小学校）

小学校では、3つのクラスの授業が公開された。1つは外国語活動、後の2つは総合的な時間を使っての国際理解教育であった。私は、「コスモポリタン HAKODATE II」という開発教育の授業に参加した。この授業は、途上国のごみ捨て場で働く子ども達のごみの中からお金になるものを探して「日常の糧」を求める様子を通して、その子ども達が家族を想いたくましく生きていくことに気付かせていくといった授業であった。写真と映像をうまく使い、児童に途上国で生きる子ども達の思いを考えいくといったすばらしい授業であった。

公開授業（五稜中学校）

中学校でも3つの授業が公開された。英語・社会・音楽での授業で、すべて1年生であった。私は、社会科で「国際観光都市函館」を歴史的背景から調べ考えさせていく授業の参観をさせていただいた。先生と生徒の関係がよく、なごやかな雰囲気で行われていた。開港から30年経過したころの函館の写真や絵を使いながらどのように函館の街が西洋化・文明開化されていったのかを子ども達に考えさせるといった授業であった。しっかりと授業の準備ができていて、函館と世界のつながりが楽しく学習できていた。

研究会に参加しての感想

今回、北見から遠い函館の研究会に参加した。函館までの行き帰りは少々疲れたが研究会を運営する方々、授業者、提言者の方々の国際理解教育に対する熱い思いを感じた。また、全道には児童のために研究を重ね、すばらしい実践されている先生方がたくさんいることを知り、自分ももっと頑張らなければならないという思いになった。国際理解教育は、さまざまな面からアプローチできるので、児童の実態に即した授業を近いうちに考え実践していきたいと思っている。また、自分自身ももっといろんなことを幅広く学習していかなければならないとも思った。

あとがき

久しぶりの函館はちょうど紅葉の時期を迎えていた。2日間とも天候に恵まれ、ちょっとした旅行気分だった。16年ぶりに五稜郭にも立ち寄った。お土産売り場では新撰組に関する商品も多く、当時の新撰組と新政府軍との戦いを想像しながら中を散歩した。

夜は、オホーツク管内からの参加者で居酒屋や屋台村に行き美味しい料理やお酒を堪能しながら、これからのオホーツク管内の国際理解教育の在り方について語り合った。やはり、函館のイカは格別の味だった。最後の締めで函館の塩ラーメンも食べた。時間がなく夜景を見に行くことができなかったのは残念だったが、今回の研究会に参加したことで、自分の中では、これから国際理解教育についての考えが深まったり、やってみたい授業も頭に浮かんできたので、いろんなことが収穫できた研究会であった。

